

3年-18 題材名 「二学期の計画」

1 目標

- ア 二学期の大きな流れを確認させ、どの時期にどんな生活を送るかの見通しをもたせる。
- イ 行事などの取り組みを想定して、学級内の問題解決を図ったり学級内の絆を深めたりして活気ある生活を築くよう、話し合わせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：学級全体で話し合っただけで決まった事柄を優先し、自我をコントロールする。
- イ **思考能力**：二学期の大きな流れを理解し、どの時期にどんなことを頑張るかを考える。
- ウ **問題解決能力**：話し合いをとおして問題を解決する。
- エ **意志決定能力**：話し合いで決まったことに対し、自分が心掛けることを明確にする。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 一学期末の反省（学年集会）で確認された、「二学期に頑張っていくこと」を踏まえさせる。
- イ 「二学期の大きな流れ」を示した資料を用意し、行事を中心にして見通しをしっかりと見通しをもたせる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 先生からの、二学期における期待や思いを聞き、本時のテーマを確認する。 二学期の学校生活の流れをつかみ、学級としての二学期の計画を考えよう
3分	
展開	2 行事を中心に、二学期の流れをつかむ。 ・二学期の主な行事を順番に確認する ・先生から、2学期の流れについて補足説明を聞く 3 一学期末の反省（学年集会）の結果を振り返り、二学期に学級として頑張っていくことを確認する。 ・生活の面 ・学習の面 ・行事の面 4 3番で確認した事項を達成するために、何が大切かを班ごとに考え、発表する。 ・しっかりとした目的意識 ・厳しさと暖かさ（互いの信頼） ・計画的な行動と協力体制 等
40分	5 各班からの発表を基に、学級としての取り組みの基本方針を決定する。 ・共通して出された事項や学級として大事にするべき事項を中心にまとめる
終末	6 学級の活動の方針を受けて、各自がどのように頑張っていくか（努力事項）をワークシートに記入する。
7分	・仲間を信頼し、協力して学校生活を送る ・自分のできることを責任をもって精一杯行う

主な指導と援助

中学校生活の大きな山場であり、行事等をとおして良い思い出をつくっていく学期であること、各自の進路の決定を控えて精神的に不安定になったりすることがあるが、そのような時こそ、学級みんなで支え合っていくことが大事であること、そうした学級をつくっていくために、どういうことが必要かを考えることを、本時の活動テーマとして確認させる。

1・2年生での経験を基に、二学期の主な行事を発表させる。教師が用意した「二学期の大きな流れ」を示した資料を基に、二学期の学校生活における諸活動の見通しをもたせる。

思考能力に関する工夫

→「二学期の大きな流れ」を基に、見通しをもつ

一学期末の反省（学年集会）の記録を基にして、学級全員で確認し合う。
一人一人の生徒に、しっかりと意識化させるために、確実に一学期末の反省（学年集会）の記録に目を通させる。
2番で確認させた「二学期の大きな流れ」ともかかわらせて、どの時期に何に力を入れていくかイメージさせる。

学級としての目標の達成のために大事なことはどんなことかを考えさせる。

問題解決能力に関する工夫

→学級として目標達成する上で大事な事項を考える

各班から出された事項に対して、必要に応じて質疑を交わさせ、学級としての考えにまとめさせる。

問題解決能力に関する工夫

→学級として目標達成する上で大事な事項を考える

生活の面、学習の面、行事の面から各自の努力事項を考えさせ、ワークシートに記入させる。

感情統制能力 及び 意志決定能力 に関する工夫

→各自の努力事項のワークシートへの記入

5 事後指導

- ・決定事項を学級掲示し、取り組みの前後（節目節目で）実行状況を確認させる。

3年-19 題材名 「自分を見つめ直す」

1 目標

- ア 進路選択の主体である「自分」に対する理解を一層深めさせる。
- イ 自分の能力や適性、興味・関心について検討し、進路選択に生かすことができるようにさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：自己理解の学習を振り返り、自己の成長や変化に気付く。
- イ **問題解決能力** や **意志決定能力**：自己の能力や適性、興味・関心を見つめ直し、それを進路選択に生かす。
- ウ **情報選択能力**：自己理解を深める力を培う。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 1・2年生での学習を生かし、総合的に自分をとらえさせ、進路の実現への基盤とさせる。
- イ 生徒一人一人の希望進路を確認しておいて指導する。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 進路選択のための段階を確認し、本時は「自分の特色」について考えることを把握する。 自分についての理解を深め、自分の諸特性を進路選択に生かしていこう
展開	2 自分を理解するためにどんな学習をしてきたか、また、自分を理解する方法にはどんなものがあったかを確認する。 ・進路適性検査 ・十人十色 ・自己評価、相互評価 等 3 ワークシート「自分についてのまとめ」にしたがって作業をし、自分の特色をつかむ。 (1) 自分の行動の傾向や性格について記入する。 (2) 自分が考えている将来の仕事とその適性について記入する。 4 今までの自分と比べて、変わったところ（成長したところ）をワークシートに記入し、発表する。 ・身体的にかかわる変化 ・性格や言動にかかわる変化 ・学習にかかわる変化 等 5 希望進路（上級学校、職業）実現のために、今後努力が必要なことをワークシートに記入する。
終末	6 自分について見つめ直した結果から考えて、自分が希望する進路について適していると思われる点や不安な点をワークシートにまとめる。 ・希望進路について適していると思われる点 ・希望進路について不安な点

主な指導と援助

教師の説明で、進路選択のための6つの段階（①将来の希望職業、②進路を決める目的、③自分の特色、④進路先の状況、⑤進路計画、⑥進路相談）を再確認し、本時の活動テーマを把握させる。
※進路選択の6つの段階＝3年-12・13で触れておく。できれば教室掲示しておきたい。

1・2年生での進路学習の記録があれば、参考にさせる。
客観的に自分を理解する方法として、進路適正検査等があったことを確認する。
確認程度とし、意見が出ない時は教師が説明する。

作業のための時間を十分に確保する。
机間指導をし、自分の特色や希望職業に適している点等を書けないでいる生徒に助言をする。

情報選択能力 に関する工夫

→自分の特色や進路適性を考える

できるだけ多くの人に発表させる。
同じようなことが出されたら、挙手で意思表示させる。
肯定的に自分を見つめさせる。

思考能力 に関する工夫

→自己の変化（成長）した点

「自分についてのまとめ」と希望進路の特性を対比して今後の努力事項を考えさせる。
机間指導をし、書けないでいる生徒に助言をする。

まとめる時間を十分に確保する。
不安な点は、教育相談等とおして、できるだけ早く解決するようにアドバイスする。

問題解決能力 及び 意志決定能力 に関する工夫

→自己を見つめ直した上での希望進路の選択

5 事後指導

- ・自分が希望する進路について適していると思われる点や不安な点を書けなかった生徒には個別に指導する。
- ・ファイリングして保存し、個人相談の資料とする。

3年-20・21 題材名 「進路先の調査」 (2時間扱い)

1 目標

- ア 自分の希望する進路先を調査することの大切さを理解させ、調査方法、調査事項等を考えさせる。
- イ 進路先の調査を積極的に行わせ、その結果を発表し合って、進路情報をつかみ、自分の進路選択に生かすようにさせる。

2 ガイダンスの機能(選択)にかかわる能力

- ア **問題解決能力** 及び **意志決定能力** : 進路希望調査に積極的に取り組み、結果を発表し合って自分の進路選択に生かす。
- イ **情報選択能力** : 自分の希望する進路先の調査の大切さを理解する。

3 指導上の工夫(留意点)

- ア 進路先の事業所等の内容や特色を調べ、進路決定や修正の手がかりとさせる。
- イ 学年合同で実施する。

4 展開(1/2時)

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	1 進路先での先輩の体験談資料を読み、その感想を発表して、本時の活動テーマを把握する。 希望する進路先について調査して、発表し合い、自分の進路選択に生かそう
展開 40分	2 決定した調査先毎に、グループに分かれる。 (1) 上級学校別のグループに分かれる。 (2) 事業所別のグループに分かれる。 3 自分の希望進路先について知りたいことを書き出す。 (1) 上級学校について知りたいことを書き出す。 (2) 事業所について知りたいことを書き出す。 4 3番で考えたことを基にしながら、グループ毎に調査方法と調査内容を話し合い、調査計画を立てる。
終末 5分	5 本時の進行状況を確認し、次時の活動に向けて準備すべきことを打ち合わせる。

主な指導と援助

資料を読み、何が問題だったか(進路先の状況をしっかりつかんでいなかったこと)に気付かせ、進路選択の諸条件の中にある「進路先の調査」を本時の活動テーマとすることを確認させる。

情報選択能力 に関する工夫
→進路先の調査の重要性を示す資料の提示

事前の準備として、生徒の希望進路先を調査し、それを基に学級の枠を超えてグループを作る。

(1)と(2)は選択で取り組むことも考える。特に(1)については、高校体験入学を生かし、その体験レポートを基にした報告会で情報を共有することも考える。
事業所については、共通の概要資料を教師側で用意し、生徒の調査先選択の判断の一助とする。

グループの中での役割分担をしてから、調査計画にしたがって作業を進める。

調査活動は、各グループ毎とし、放課後等を活用させる。

4 展開(2/2時)

導入 5分	1 発表にあたり、発表順や方法、聞く側の心得や留意点について先生から説明を聞く。
展開 40分	2 調査したことを発表し合い、それぞれについて質問をして情報を共有する。 ・グループ毎に発表する ・メモをとりながら聞き、発表に対する評価をする
終末 5分	3 他のグループの報告を聞いて思ったこと、感じたこと、考えたことを書く。 ・自分の希望する進路先にも通じるものがある ・知らないことがあって興味がわいた

問題解決能力 に関する工夫
→希望進路先の調査活動(放課後等を活用)

場合によっては、ポスターセッション形式で実施する等、実施方法を工夫する。
聞く側がメモをとるためのワークシートは教師が用意する。
各グループの発表後に、その都度、質疑の時間をとる。

問題解決能力 に関する工夫
→希望進路先の調査結果の発表活動

自分の能力や適性等と照らし合わせて学習を振り返らせ、考えさせる

意志決定能力 に関する工夫
→自分の希望進路と対比し考えを深める

5 事後指導

- ・各グループの発表資料は回収し、冊子にする。(場合によっては、進路コーナーに掲示する。)
- ・進路相談に活用し、自分に合った進路計画を立てさせる。

3年-22 題材名 「学習の課題や悩みの解決」

1 目標

- ア 学習上の不安や悩みから逃げずに、前向きに解決する努力をさせる。
- イ 事例検討や相談活動をとおして、学習の改善を図らせる

2 ガイダンスの機能（適応/選択）にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 自ら進んで心を打ち明け、相談する。
- イ **感情統制能力** : 学習上の不安や悩みは誰にでもあり、それから逃げない気持ちをもつ。
- ウ **問題解決能力** : グループ討議や相談によって解決を図る。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 事前に、「学習に関する不安や悩み」のアンケートを実施し、集計して資料化しておく。
- イ **ピア・カウンセリング**や教育相談を実施する。
- ウ 一人で悩んで投げやりにならないようにさせる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 「学習に関する不安や悩み」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 学習上の不安や悩みを取り除き、学習活動の改善を図ろう
展開	2 「中学生活と進路」p. 50の「集中力を高めて成果をあげる」を読んで、悩みの原因（問題点）はどこにあるかを考える。 ・「ながら勉強」 ・夜遅い時間帯の勉強
	3 「中学生活と進路」pp. 52-53の「苦手意識を取りのぞこう」を読んで、苦手意識を取り除く方法を班で考える。 ・不得意になった原因を突き止める ・理解できるところとできないところをはっきりさせる ・自分の将来の希望と結び付けて考える
	4 各自の学習活動の実態と、学習上の不安や悩みを「相談用紙」に記入する（クライアント）。 ・相談用紙の、今までの「家庭での学習の取り組み状況」のアンケートに回答する ・学習活動に関する不安や悩みを書く
	5 任意の級友の「相談用紙」にコメントを記入する（カウンセラー）。 ・クライアントの学習の実態、不安や悩みに対して、アドバイスや励ましを記入する
	6 回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーの思いをよく考えてみる
終末	7 ピア・カウンセリング を取り入れて学習活動を振り返っての、自分の思いや感想を発表する。 ・不安や悩みは自分だけではなかった ・具体的なアドバイスがあって参考になる ・どちらも悩んでいるので先生に相談したい

主な指導と援助

アンケート結果から気付いたことを数名に発表させる。学習に関する不安や悩みは、誰でもがもっていることを把握させ、その原因や解決の方策等を考えることをとおして、各自の学習活動の改善に結び付けることを、活動テーマとして確認する。

M君、F君と比べて、自分の学習習慣や学習環境と似ているところがあれば指摘させ、挙げられた点について学級全体の傾向を挙手により確認させる。

感情統制能力 に関する工夫
→ **学習上の悩みの原因と自分との対比**

導入で示した、学級のみんなの「学習に関する不安や悩み」のアンケート結果とも照らし合わせて考えさせる。苦手意識を取り除くための視点として、三つの点を指摘させる。

問題解決能力 に関する工夫
→ **グループでの話し合い**

各自の学習活動の実態と学習上の不安や悩みを素直に記入させる。「相談用紙」を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。「相談用紙」を集め、任意の級友に渡すように再配布させる

人間関係能力 に関する工夫
→ **「相談用紙」への正直な記入**

真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。書き終わったら、二つ折りにして提出させる。自分のマークの付いた「相談用紙」を持っていかせる。

次の観点から、自分の思いや感想をまとめさせる。
・学習活動の実態、不安や悩みを書いたときの気持ち
・カウンセラーとしてアドバイスや励ましを記入していた時の気持ち
・回答を読んだときの気持ち

数名に発表させる。本時の活動を基にして自分の学習活動を改善し、進路実現に向けて努力していくように促す。また、教育相談を随時実施することを告げて、まとめる。「相談用紙」に氏名を記入させ、提出させる。

感情統制能力 に関する工夫
→ **ピア・カウンセリングによるアドバイスと励まし**

5 事後指導

- ・学習計画を作成させ、それに基づいて学習させる。また、必要に応じて個別の教育相談を行う。

3年-26 題材名 「進路を最終決定する」

1 目標

- ア 進路計画の検討と進路相談をとおして、自分の進路先を最終決定するための方向付けを図らせる。
- イ 自分の責任で進路を選択決定していくという意識をもたせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力** 及び **問題解決能力** : 自分の進路希望や進路計画を吟味・再検討して、最終的な進路決定への方策を考える。
- イ **意志決定能力** : 自分の責任で進路を選択していく。
- ウ **情報選択能力** : 相談活動をとおして進路の最終決定への情報をつかむ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 「進路希望チェックリスト」を活用する。
- イ 進路計画表と進路相談票を用意する。

進路計画表は、2年三学期に作成。3年12・13「先輩の姿に学ぶ」や15「生き方について考える」で変更・修正してきている。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 進路選択のための6つの段階を基に、最終的な進路計画を作ることを確認する。 進路計画の検討と進路相談をとおして、自分の責任で自分の進路先を最終決定しよう
展開	2 「進路計画表」で、自分の進路計画の現状を書き出す。 ①将来の希望職業について ②進路を決める目的について ③自分の特色について ④進路先の状況について ⑤進路計画について ⑥進路相談について 3 自分の進路希望と進路計画の検討を行う。 (1) これからの努力事項（まだ取り組みが不十分なところ）を明確にする。 (2) 目標や実現への意志を確認し明確にする。 (3) 適性や家族の意見など、周りからの条件との折り合わせができていないか確認する。
42分	4 進路の最終決定に向けて、進路相談の際に聞いたり相談したりしたいことについて、各自で考え進路相談票に記入する。
終末	5 進路相談について、先生からの話を聞く。 ・進路相談は大切なものであるが、最終的な決定は自分で行うものであること ・進路相談の指導体制 ・進路相談のスケジュール

主な指導と援助

進路選択のための6つの段階については、1・2年生で簡単に触れている。また、3年19「自分を見つめ直す」でも学習した。本時は、それを再々確認し、残された進路計画の検討と進路相談を進め、進路の最終決定（中学校段階としての、将来的な見通しを踏まえさせた上での進学・就職の最終決定）に進んでいくことを活動テーマとして確認させる。

「進路計画表」は進路選択の6つの段階を踏まえて作成する。12・13「先輩の姿に学ぶ」で作成したものを参考にさせ、現在の状況をできるだけ具体的に記入させる。

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫
→進路計画の吟味・再検討

「中学生生活と進路の」p.64「進路希望チェックリスト」も活用して検討する。進路希望チェックリストに準じて、進路計画表の各項目も5段階で評価し、実現に向けての進捗状況を総合的に判定させる。

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫
→進路計画の吟味・再検討

できるだけ具体的に記述させる。

情報選択能力 に関する工夫
→進路相談の内容の具体化

進路相談は、あくまでも自分での決定のための援助であり、情報の提供やアドバイスはするが、決定は各自が行うものであることを強調する。自分で納得した上で決定をしなかったために後悔したり、自暴自棄になったりした例を紹介する等の工夫をする。

意志決定能力 に関する工夫
→自分の意志で進路決定する心構えの醸成

5 事後指導

- ・進路計画表と進路希望チェックリスト、進路相談票を集め、点検する。
- ・特に、進路相談票については、他の先生との連携や新たな資料の収集など早期の対応が求められるものがあるので、できるだけ早く相談項目の概要を把握しておく。
- ・進路計画表や進路相談票に基づき、進路相談を進める。

3年-27 題材名 「自分の道を切り開く」

1 目標

- ア 誰もが進路を控えて不安や悩みを抱えていることを知らせ、気持ちを和らげさせる。
- イ 先輩の事例を参考にさせ、自分の進路に生かしていこうとする気持ちをもたせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：今の自分がなすべきことを考える。
- イ **問題解決能力**：先輩の事例をヒントに、不安や悩みをどのように解決したらよいか考える。
- ウ **情報選択能力**：先輩の事例を自分の選択に生かす。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 自分がなすべきことと必要な準備を把握させ、不安や緊張を和らげる。
- イ **受験や面接を控えての不安や悩みのアンケート**を実施し、資料化しておく。
- ウ 受験や面接を控えての不安や悩みの解消にかかわる**先輩の事例を準備**する。

面接に関しては11月末の時点ではそれほど不安に感じていないことも予想されるが、冬休み前後の本格的な指導の契機にしておく。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 受験や面接を控えての不安や悩みのアンケート結果を確認し、活動のテーマを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 受験や面接に対する不安や心配を克服する方法を考え、自らの進路を切り開いていこう </div>
3分	
展開	2 数人の先輩達の、受験や面接を控えての不安や悩みの体験談とその解決策を読む。 ①「志望動機をはっきりと」 ②「気分をリフレッシュさせながら」 ③「自分を信じて進もう」 ④「チャレンジ精神でがんばる」
	3 2番の4つの事例について、不安や悩みの解決方法としてすばらしいところ、参考になるところを話し合い、自分たちの考えにまとめる。 (1) 班毎に話し合う。 (2) 各班の話し合いで出されたことを発表し合う。
	4 不安や悩みを解消するために、自分が今なすべきこと、できそうなことをまとめる。 ・メリハリのある生活を送る ・やるだけやって自信をつける 等
	5 4番で考えたことを発表する。
42分	
終末	6 今後の進路の学習や進路事務推進の見通しについて先生からの説明を聞く。 ・三者面談に向けて家族ともよく相談する ・次時は、入学願書や就職相談票の書き方、面接の受け方について学習する
5分	

主な指導と援助

ほとんどの仲間が受験や面接を控えて、不安や心配、焦りなどを抱えていることを把握させる。そして、本時の活動テーマは、それらを克服して進路を切り開いていく方策を考えることを確認する。

「中学生活と進路」pp.72-75の4人の例を読ませる。事前のアンケート結果から浮き彫りになった生徒の不安や悩みに対応した事例を、各学校の卒業生の実例で用意できれば、申し分がない。そうした資料がない場合は、教師の指導経験の中から実例を資料化して提示する方法も考えられる。

先輩の事例から、参考になる方法や考え方を抜き出し、自分達の悩みや不安に当てはめてみるようにさせる。その上で、それらをより実際に則し効果的なものにするためにどうすればよいかを考えさせる。

情報選択能力 及び **問題解決能力** に関する工夫
 →先輩の事例から不安や悩みの解消策を考える

3番の、班での話し合いでだされたことや、各班から発表されたことを、自分に当てはめて考えさせる。

思考能力 に関する工夫
 →不安や悩みの解消のために自分がなすべきこと

できるだけ多くの生徒に発表させる。

進路が目前に迫ると、誰もが不安や悩みをもつようになる。本時はそれを和らげる方法を考えたが、仲間を信頼し励まし合うことは特に大切であることを強調する。
 受験や面接は個人の問題ではあるが、それを控えての不安や悩みは、みんなに共通することである。そこで、みんなで支え合い励まし合っていくことが必要であり、行事などを通して培ってきた学級の和、人間関係の真価が問われることを理解させたい。

5 事後指導

- ・進路相談を継続する。
- ・生徒達が抱えている不安や悩みを通信等で紹介し、家庭との連携を強化する。特に、生徒の気持ちを理解し、温かくかつ力強く支えていくこと（腫れ物に触るような感覚での甘やかしをしないことや、家族が不安のあまり神経質にならないようにすること）をお願いする。

3年-28 題材名 「進路の手続き」

1 目標

- ア 進学や就職のためにどのような準備が必要なのか明確にさせる。
- イ 入学願書や就職相談票の記入の仕方を理解させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力** 及び **問題解決能力** : 進学や就職に必要な準備を整え、自らの力で準備を進める。
- イ **問題解決能力** : 好ましい面接の受け方について考える。
- ウ **情報選択能力** : 入学願書や就職相談票の記入の仕方を理解する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 入学願書や就職相談票のコピーを用意し、実際に記入させる。
- イ 面接のロールプレイを行い、面接の受け方を考えさせる。

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	<p>1 入学試験や就職試験への最終準備としてどんなことが必要か考え発表する。</p> <p>入学や就職の試験に向けての最終準備の中身を知り、着実に準備をしていこう</p>
展開 40分	<p>2 「中学校生活と進路」 pp.70-71の「進路実現へのパスポート」を参考にして、現時点での準備の進捗状況を確認しチェックする。</p> <p>3 2番で、まだ準備ができていない事項（○印がつかなかった事項）を確認し、それらに対しての今後の取り組みについて、先生の説明を聞く。</p> <p>4 入学願書や就職相談票の記入の仕方の説明を聞き、実際に下書きしてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学願書のコピー（公立、市立） ・就職相談票のコピー（希望者がいない時は省略） <p>5 面接のロールプレイを見て、よりよい面接の受け方となるように、改善点を出し合う。</p> <p>(1) 次のような役割分担で、よくない例を意図的に演じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接官役－担任教師 ・生徒役－副担任教師 <p>(2) どこをどう直せばよいかを発表する。</p>
終末 5分	<p>6 進路の手続きについて、先生からの今後の指示を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路実現へのパスポート」を活用して、各自でできることはどんどん準備を進める ・入学願書や就職相談票の下書きを提出する ・先生との面接練習をする

主な指導と援助

- 思いのまま発表させ、それらを確認めたりすることを本時の活動テーマとして確認させる。
関係書類の提出期限については、厳しい現実があることを、具体的事例で強調しておく。
- 「中学校生活と進路」の例を参考にして、自校用を作成しておくことよい。その際、複数校を受験する生徒を考えて、確認欄を増やしておく。
教師が各項目を読み上げ、必要に応じて説明をしながらチェックさせる。
- 全員に共通する事項については、教師から準備の指示をする。個人的な事項は、教師の助言を得ながら各自で準備させる。
- 思考能力** 及び **問題解決能力** に関する工夫
→進学や就職に必要な準備のチェック
時間を有効に使うためにも、記入例を用意して説明する。公文書の記入上の注意の学習も兼ねて、氏名・住所、学校名、学科名などを正確に書くことを強調する。
時間が不十分な時は、課題にする。
- 情報選択能力** に関する工夫
→入学願書や就職相談票の記入の仕方
- 受け答えの仕方や内容はもちろん、入室から退室までの行動や服装、言葉遣いなども意図的に問題のある形で演じる。
生徒が演技をする場合は、事前に指導し、練習させておく。
- 問題解決能力** に関する工夫
→面接のロールプレイをみて改善点を考える
- 面接にかかわっては、過去の質問例を印刷して配付し、自分なりの回答例を考えさせておく。また、面接の手引きがあれば、それも配付する。
教師との面接練習に臨む前に、友達同士で練習しておくように指示する。

5 事後指導

- ・「進路実現へのパスポート」を集めて点検し、必要に応じてアドバイスする。
- ・入学願書や就職相談票の記入（下書き）の点検をし、清書に向けての指導をする。
- ・面接指導をする。

3年-31 題材名 「冬休みの反省と新年の決意」

1 目標

- ア 冬休み中の生活と学習の目標を、冬休みの計画に基づいて振り返らせ、成果と課題を確認させる。
- イ 卒業までを見通して、これまでの歩みを振り返らせ、まとめさせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：㊸残り3カ月を共に頑張ろうという気持ちをもつ。㊹後輩に託すことを、心を込めて伝える。
- イ **思考能力** 及び **問題解決能力**：これまでの中学生生活（自分達の足跡）を振り返り、どんな形で自分達の思いや感謝の気持ちを伝えるか考える。
- ウ **意志決定能力**：感謝の気持ちをもって学校生活をおくろうと決意する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 冬休みの計画表を活用する。
- イ 冬休みの反省用紙を交換し合って、**ピア・カウンセリング**をする。
- ウ **班や学級全体での話し合い**。
- エ 自分たちの歩みを振り返るだけでなく、後輩に残し伝えるものは何かを考えさせる。

展開の後半（7、8番）に重点をかけて活動をすることも考えられる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 冬休みを振り返っての思い出や感想を発表し、活動テーマを知る。 冬休みの成果と課題を確認し、三学期の流れをつかんでまとめの学期を歩み出そう
展開	2 冬休みの課題や提出物等を提出する。 ・通信票、保健票等 ・教科等の課題
	3 冬休みの反省の仕方について、先生から説明を聞く。 ・夏休み明け同様、ピア・カウンセリングの手法を用いることを知る
	4 冬休みの計画表を基にしなが、 「冬休みの反省用紙」 にしたがって各自で冬休みを振り返る。 ・成果や課題を記入する（クライアント）
	5 任意の級友の成果や課題に対するコメントを記入する。（カウンセラー）
	6 カウンセラーからの回答を読む。
42分	7 これまでの自分達の足跡を振り返り、どんな形で自分達の思いや感謝の気持ちを伝えるか考える。 (1) 班毎に話し合う。 (2) 各班の意見を出し合い、学級全体の意見にまとめる。
	8 7番の決定を受けて、各自がどのように取り組んでいくかを考え、反省用紙に記入する。 (1) 先輩としての心構えや思いの面から。 (2) 学校や世話になった人々への感謝の気持ちの面から。
5分	

主な指導と援助

数名に発表させる。
有意義な冬休みだったか、そうでなかったかを挙手させ、全体的な傾向を確認した上で、各自の冬休みについていくつかの観点から振り返り、任意の級友同士で互いに評価・激励し合うことと、自分達の思いや感謝の気持ちを伝える方法を考えることを、本時の活動テーマとする。

通信票や保健票等は、担任が提出状況を確認する。
教科等の課題は、各教科係に、本時の活動終了後に提出状況を確認させる。

〈ピア・カウンセリング実施上の約束事〉
・否定的なこと、人がいやがることは書かない
・秘密は絶対を守る
・カウンセラー（答えてくれた人）を探さない

冬休みの成果と課題を素直に記入させる。
反省用紙を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。
反省用紙を集め、任意の級友に渡すように再配付させる。

真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。
落ち着いたBGMを流して雰囲気を作る方法もある。
書き終わったら、二つ折りにして提出させる。
自分のマークの反省用紙を間違えずに持っていかせる。

人間関係能力㊸ に関する工夫
→**ピア・カウンセリング**

自分たちが大事にしてきた活動や思いは何であったか、今までどのような人々に支えられて学校生活を送ってきたかを振り返らせる中から、取り組みの方向性をつかませる。
取り組みの具体化については、学級役員や有志に一任し、提案に協力していくことを確認させる。

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫
→**後輩に託すことと周りの人々への感謝の策を話し合う**

中学校生活を有終の美で締めくくるために、自分はどのような心構えでどんなことをしていくか替えさせる。

人間関係能力㊹ 及び **意志決定能力** に関する工夫
→**自分の思いや感謝の気持ちを伝えるための決意**

5 事後指導

- ・冬休みを振り返ってのアンケートを集計し、通信等で紹介する。
- ・後輩に託すこと、学校や関係者への感謝の方策の具体化に向けて有志を募り、計画の立案や実施への助言をする。

3年-33・34 題材名 「勇気を出して自分の道を」 (2時間扱い)

1 目標

- ア 新しい学校、新しい職場生活に積極的にかかわっていく勇気と心構えをもたせる。
- イ 新しい生活で予想される悩みについて、どう解決していけばよいかを考え、自己向上意欲を高めさせる。
- ウ 身近な人のメッセージから、夢をもつことの大切さを再認識させ、その実現に向かって努力する決意をもたせる。

2 ガイダンスの機能(選択)にかかわる能力

- ア **思考能力** 及び **問題解決能力** :先輩のメッセージから、自分の生活に生かせる点を考えて、不安や悩みの解決を図ったり、夢の実現への意欲を高めたりさせる。
- イ **意志決定能力** :不安を克服し、夢を求めて自分の道を歩んでいく意志をもつ。
- ウ **情報選択能力** :みんなが不安を感じていることを知る。

3 指導上の工夫(留意点)

- ア 先輩、先生、家族の**メッセージや、アンケート**を基にした話し合い
- イ **新生活への気持ち(特に不安)のアンケート**を実施し、資料化しておく。

※第2時間目を、学年集会の形で実施することも考えられる。

4 展開(1/2時)

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 新生活に対する気持ちのアンケート結果を確認し、活動テーマを知る。 新しい世界へ踏み出す勇気と心構えをもち、夢を追い求めていこう
5分	
展開	2 班の中で、新生活に向けての今の自分の気持ちを発表し合う。 3 先輩からのメッセージを読み、1、2番で確認したみんなの不安や心配事への対処法で参考になる点について話し合う。
37分	4 新生活に対する各自の決意をワークシートに記入する。
終末	5 各自の決意を発表する。 ・座右の銘をもっていつも励みにする ・新しい環境の中で新しい自分を築いていく
8分	

主な指導と援助

新生活への不安や心配事は誰もがもっていること、その一方で新生活への期待もあることを把握させ、本時の活動テーマを確認させる。

情報選択能力 に関する工夫

→新生活に対する気持ちのアンケート結果

「中学生活と進路」p.80の「感謝のこぼれをばはげみに」を読ませる。
1番のアンケート結果を踏まえて、より適切な事例を、各学校での事例から用意できれば申し分ない。

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫

→先輩のメッセージを自分の不安解消に生かす

先輩のメッセージから、自分の新生活に生かせる点を取り入れさせる。

できるだけ多くの生徒に発表させる。

意志決定能力 に関する工夫

→新生活に対する各自の決意の発表

4 展開(2/2時)

導入	1 前時の復習をする。 ・新生活の不安や心配事への対処法
5分	
展開	2 将来の夢をもつことについての身近な人からのメッセージを読み、感じたことを発表する。 ・人生の先輩の言葉は、重く、励みになる
35分	3 将来の夢を実現させるために大切なことについて、先生方からメッセージをもらう。 ・校長先生、教頭先生、学年団の先生から
終末	4 将来の夢の実現に向けて努力していく気持ちを作文にする。 ・自分の願いや理想をできるだけ具体化する ・スモールステップで夢に近づいていく 等
10分	

前時に書いた「新生活に対する決意」をプリントにまとめて配付し、振り返らせる。

生徒の励みになる内容のメッセージを用意する。
夢をもつことの大切さを再認識させる。

学年集会の場に、校長先生を初め、数名の先生を招いてメッセージをいただく。都合がつかない時はVTRに録画しておいて紹介する。(時間的なことも考えると、この方法が確実。)

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫

→先輩のメッセージを自分の不安解消に生かす

今までの進路の学習で学んだことを踏まえて、できるだけ具体的に書かせる。

意志決定能力 に関する工夫

→将来の夢の実現に向けた気持ちを作文

5 事後指導

- ・将来の夢の実現に向けての作文を、通信等で紹介する。
- ・必要に応じて個別の指導をする。

3年-35 題材名 「希望にあふれて」

1 目標

- ア これからの人生を希望をもって歩むための心構えや抱負を考えさせる。
- イ 自分の将来についてのプランを書かせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：未来に希望をもって進むための心構えを考える。
- イ **問題解決能力**：希望に溢れた自分の将来の姿を構想する。
- ウ **意志決定能力**：将来の生き方についての意志を固める。
- エ **情報選択能力**：これまでに学んだ方法を総動員して考える。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 10年後を想定した「**未来の自分からの手紙**」を書かせる。
- イ 手紙を、**タイムカプセルに入れて、10年後に開封**することにする。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 「中学生生活と進路」p.82の「夢や希望を実現するために」を読んで、活動テーマを確認する。 「 未来の自分からの手紙 」を書き、未来に希望をもって飛び出そう
展開	2 自分で決めた進路先について、希望をもって進むための心構えを考え、発表する。 ア 可能性や夢を追い求める イ 粘り強く努力する ウ 職業の三要素から考える ・社会に貢献し認められるようになる ・満足のいく収入を得る ・自分のもっている能力を生かす 等 3 次の要領で「 未来の自分からの手紙 」を書く。 ア 前文「10年後の私から、10年前の私へ」 イ 10年後の自分について考えたこと ・今の生活や家族（日常のようす） ・中学校卒業後の歩み（進路、就職、生活） ・どんな仕事をしているか ・就職するまでの苦労、努力、成功や失敗 ・今、親しくしている人（友達） ・中学校の時の経験で生きていること ・その他
40分	
終末	4 「 未来の自分からの手紙 」を書いてみての感想を発表する。 ・書いたとおりになっていればいい ・10年後がとても楽しみ
7分	5 今後の取り組みの予定について、先生からの説明を聞く。

主な指導と援助

希望に溢れ、生き甲斐をもって暮らすためには、自分の良さを生かしながら社会に貢献できる人間になる必要があることを資料から押さえさせる。そこで、そのようになっている自分を想像して、未来の自分からのメッセージを書くことをとおして、将来への希望をふくらませることを活動テーマとして確認させる。

入学試験への合格といった目先のことばかりでなく、長い目で進路をとらえて考えるようにさせる。
プラス思考で考えるようにさせる。

思考能力 に関する工夫
→希望をもって進路を歩むための心構えを考える

手紙の様式は、教師が用意する。書かせる項目は、生徒の実態などを考え、適宜変更する。
夢や希望が溢れた内容になるように、前向きな気持ちで書かせる。
10年後、20年後、30年後、40年後のライフプランを書かせる方法も考えられる。

問題解決能力、**意志決定能力**、**情報選択能力** に関する工夫
→「**未来の自分からの手紙**」

希望いっぱいにして新しい世界へ飛び立てるようにさせる。
できれば、全員に発表させる。

10年後のみんな、10年後の自分と今考えた自分との再会を楽しみにして、力強く歩んでいくよう促して話をまとめる。

5 事後指導

- ・「未来の自分からの手紙」をタイムカプセルに入れる。
- ・場合によっては、「未来の自分からの手紙」を文集にまとめる。